

## 新年早々、心なごむエピソードが...

元旦早々に、メル友から年賀メ - ルに、次のような記載が.....。

その概要は、元旦早朝に、遠方の大都会のガンで入院中の友から、かなり苦しそうな声で「逝く日が今日だと思う・・・」と電話。状態が良くないことは知っていたが、小康状態とっていたので驚き、急遽行って来るとのこと。

この短いメ - ルの数行の裏に、二人のどんな友情ドラマがあつたのでしょうか.....。

恐らくメル友は、空路駆けつけたことと思う。正月であろうが、生命のある内に「行かなきゃ！」という気持ちの方が大きいのでしょうか。その人の気持ちに寄り添っているメル友の姿がとても美しく思えます。

私も、そうありたい。何かでピンチの時に、思い出してもらえる人になりたい。そのためには、日頃からそういう係わり合いをしていないとだめでしょうね。

さて、私の日頃はどうかかなあ.....。皆さんは、どうですか？

新年早々、何とも心なごむエピソードに出会った。

そして、二人の友情が奇跡を生むよう祈りたい。

(後日、メル友の両親から「娘が貴女に会いたがっている」との電話があり、急遽友人を見舞った由。その帰途の新幹線車中の時間帯に、友人は安らかに眠りについたことを後で知ったとか。

友人は、メル友が会いに来てくれることを両親から教えられ、それまで心待ちに生命を長らえ、メル友の顔を見て、安らかに逝かれたのだらうなあと思う。

心と心が係わり合い、寄り添う存在が、如何に生命にとって最も大事なものを、この話から私は改めて教えられた気がする。)

(2004年01月02日記)